

検討の観点	内容の特色
<p>1. 内容</p>	<p>テーマ・ねらいが明確、着実に学習を進められる単元構成である。 「何のために」「何をやるか」が明確な、学習活動の流れに沿った単元構成である。身につける力ごとに教材・活動を設定しており、着実に学習を進めることができる。</p> <p>日本の言語文化を総合的に学べる、選び抜かれた作品群である。 単元ごとに、日本の言語文化を代表する古文・漢文・近代以降の文章作品を配置している。さらなる学びに向けた「広がる読書」や、自ら課題を選ぶ「選択総合単元」もある。</p> <p>丁寧な手順・事例解説、豊富な資料や図版・写真である。 読後の課題「羅針盤」では、丁寧な手順・事例解説で主体的な学習活動をサポートしている。各種コラムや図版・写真、資料編も含め、豊富な参考資料を掲載している。</p> <p>①学習の見通しと振り返り位置付け、「学びに向かう力」を育成することができる。 ・単元の目標とテーマを踏まえ、各教材に「学習テーマ・見通し」と「振り返り」が設定されている。これにより、学習活動を通して身につけた力を自分で確かめ、次の学習にいかすことができる。 ・学習の系統化により、学習指導要領の「知識及び技能」の事項を段階的・体系的に習得できる。 ・はじめに「入門単元」を置き、言語文化の学習に意欲をもって取り組める工夫がされている。 ・「読むこと」は、大きく2つの系統に分け、「我が国の言語文化」を中心に学ぶ単元（1・3・5単元）と、「文学を読む力をつけ、味わうこと」を中心に学ぶ単元（2・4・6単元）で構成している。 ・「書くこと」は、「春・夏・秋・冬」をテーマに、興味をもって取り組める4つの単元が設定されている。 ・各教材の「羅針盤」（学習の手引き）では、丁寧で効果的な学習のプロセスを示している。「課題」を通して内容の理解を行った上で、「協働的な学びのために」や「探究的な学び」を通して、「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるように、多様な学習場面を設定している。 ・自ら学びを確認したり深めたりするために、「二次元コード」を適宜配置されている。</p> <p>②学習の見通しと振り返り位置付け、言葉で考える力を育て、語彙力を拡充することができる。 ・古典を読むために必要なきまりの学習への誘いとして、「古文を読むために」「漢文を読むために」を教材内に適宜配置し、学習活動の文脈の中で適切に理解し、活用できる。さらに、「資料編」にリンクさせ、詳しく理解することで、必要に応じた知識を身につけられる構成になっている。 ・「羅針盤」の中に設定した「語彙を広げる」では、教材に関連した「語彙」を取りあげることで、語感を磨き、文化的背景や言葉の変化についてのより深い理解ができる。 ・「資料編」には、「基本古語辞典」や「常用漢字高校で学ぶ音訓と用例」を掲載し、さらなる語彙力の拡充ができる。 ・現代の生活に密着した「コラム」を教材のあとに配置し、生涯にわたる能動的な学びを促すことを重視している。</p> <p>③対話と合意形成、そしてコミュニケーション能力の育成のための協働学習ができる。 ・全ての教材の「羅針盤」に、「協働的な学びのために」を配置し、ディスカッションによる意見交流や多様な表現活動を取り入れている。 ・対話を通して考えたり、問題を解決したりする機会と場が充実している。 ・第1単元「ゴール」の羅針盤の「読書交流会」をはじめとして、活動を行う際の参考になる例を具体的に示している。 ・さらに「資料編」には、「言語活動のための基礎用語集」を掲載し、言語活動の充実に資するようにしている。</p> <p>④多様な価値観、ものの見方や考え方を拡充することができる。 ・価値観が多様化するグローバル社会で求められる、幅広い資質・能力の育成につながる教材を精選されている。 ・例えば第6単元「徒然草」では、SDGsを取りあげ、人間、社会、自然などの広い視野から考えを深める問いを設定している。</p> <p>⑤自分の考え方を形成することができる。（思考力・判断力・表現力） ・全ての教材において、自分の考えを表現する（書く・話す）学習が重視されている。 ・特に対話を通して、考えたり問題解決したりする機会と場が充実している。また、調べたり情報を解釈したりしながら課題に向き合うことで、柔軟で多面的な思考を育成することができる。 ・最後の「選択総合単元」では、「言語文化」の学習の総合化を期し、課題や作品、発表形式を自分で選び、創意工夫を追究する学習を展開できる構成である。</p> <p>⑥言葉の文化の担い手として、また豊穡な読書、伝統的な言語文化の継承・発展を目指すことができる。 ・単元末尾の「ブックガイド」には、多様なジャンルの読書に誘う表紙を掲載し、本を媒介とした豊</p>

『新言語文化』（15 三省堂 言文 704）―検討の観点と内容の特色

	<p>かな言語文化にふれることができる。</p> <p>・「広がる読書」を適宜配して、さまざまな文章にふれる機会をつくっている。「作家とよむ」シリーズには、現代の作家（川上弘美、高橋源一郎ほか）による訳文とエッセイを掲載し、古典の現代的な意義を考えるための入口を設けている。また、「まなの本棚」（芦田愛菜）など、多様なテキストやメディアを採録している。</p>
2. 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●各々のテーマ・ねらいや身につける力を明確にした、全8単元（入門・選択総合含む）の構成である。 ●単元ごとに古文、漢文、近代以降の文章を配置し、総合的なカリキュラムを、スムーズに組み立てられる。（小説・韻文 10 教材／随筆・紀行ほか 5 教材／古文 7 教材／漢文 7 教材／書く 4 教材） ●教材に関連したコラムのほか、古典文法・漢文句法のミニ解説（古文／漢文を読むためにも）も充実している。 ●「広がる読書」では、学んだ教材を別の視点から取り上げた作品を掲載し、さらに読解の世界を広げている。 ●「選択総合」単元では、複数の作品から学習者自身が探究するテーマを選び、課題に取り組むことができる。 ●資料編には、日本の言語文化史や基本古語辞典、漢文の基本区形など、適宜参照できる情報が充実している。 ●資料編「物語を読むためのキーワード」は、中学校で学んできた基本的な読解の復習になる。
3. 表記・表現、及び指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えている。 ●用語・記号は統一しており、生徒が理解しやすい記述になっている。 ●脚注は分量・内容とも適切である。また、平易な表現で記述されており、生徒の理解を助けるものとなっている。 ●資料編の「思考の方法」などは、文字による解説に加え、わかりやすい図解を用いることで内容を視覚的に捉えられるように工夫している。 ●授業を支援する教師用指導書や教材、ICT ツールなどが充実している。教科書には学習をサポートする二次元コードがある。指導しやすく学習しやすい教科書である。
4. ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザイン（CUD）の専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザイン（UD）に配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫している。 ●CUD への対応は、色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色にしている。識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設け、色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮している。 ●教材で使用している文字に UD フォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいように配慮している。
5. 印刷・造本などの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●活字・写真・挿絵は鮮明で、かつレイアウトも工夫されており、学習に取り組みやすい教科書となっている。 ●教科書用紙は、環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用している。 ●印刷に使用しているインキは、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油のものを使用している。 ●製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。また、ページの開きがよく、読みやすい製本方式を用いている。
<p>【総合所見】</p> <p>生徒の学びに向かう力を引き出す明解かつ多様な教材が採録されており、学習過程や学習内容が明確で、言語活動の充実などが図られ、質的ならびに分量も適切である。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能の習得と、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等の育成に資する工夫を随所に施され、主体的・対話的で深い学びができる。この教科書は、科目『現代の国語』の目標である、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成すること（上代から近現代に受け継がれてきた日本の言語文化への理解を深めること）に適した教科書である。</p>	